令和３年 12 月２日

令和３年度　第２回玉野市総合教育会議　議事概要

総 合 政 策 課 作 成

日　時　令和３年 11 月 24 日（水）14:00～15:20　玉野市役所３階 特別会議室

出席者　[構成員]　市長　柴田　義朗
教育長　妹尾　均
教育長職務代理者　加藤　正枝
教育委員　妹尾　恵美
教育委員　太宰　実千代
教育委員　三宅　英次

[事務局]　教育次長、教育総務課長、学校教育課長、就学前教育課長、社会教育課長、教育総務課長補佐、学校教育課長補佐、政策財政部長、総合政策課長、総合政策課長補佐、総合政策課主幹

１．協議事項

（１）市長と教育委員会の教育に関する意見交換等 について
（２）その他

２．議事概要

市長　（市長あいさつ）

教育の問題では玉野市にとって非常に重要な課題が多くあると思う。特に人材の養成で将来の玉野を担う若い人たちを今後どの様に養成していくか、また将来地域に貢献してもらえるような人材を育ていければよいと思っている。人口減少で子ども達も少なくなっている状況なので、地域の活力を高めながら育成していくという難しい舵取りになるが、皆さんのご協力ご理解をいただきながら進めていきたい。

市長　議事の（１）市長と教育委員会の教育に関する意見交換等について私からお話をして、その後委員の皆さまから感想・意見をいただいて意見交換をしたい。最初なので大きな括りの話からしたいと思う。まず、玉野市の教育の問題で出てくるのは学力の向上であると思うが、現状、小学校はやや県平均より低く、中学校は県平均に追いついている状況と聞いている。この学力の向上について今後どのように取り組んでいくのか、もう少し学力を上げていくことを考えていただきたい。また、今世の中は急激に変化しており、デジタル化や DX などの IT 関係、AI やロボットといった時代がおそらく今の子ども達が大人になる頃には普通になってくると思う。そういう時代の大きな変化の中、これまでの教育の方針や教育内容もこのままでいいのかという疑念が

ある。知識偏重といった詰め込み型の教育だけではなく、人間にしかできない部分が残ってくる。職業にしてもAIが発達するとなくなる職業がたくさん出てくるという話もあるが、その時に身につけるべき知識や技術、人間性といったものは大切にしていかなければいけない。その辺りの考え方、方針を立てていく必要があるのではないかと思うが、それにはおそらく教育委員会と教育長だけの力ではなかなか及ばない面もあると思う。専門の先生や企業の方の意見も聞きながら、どんな方向で進めていくかについてまずは議論することが大事ではないかと思う。このことについて意見をいただきたい。学力向上の詰め込み型の教育と相反する話かもしれないが、やはり大事なことだと思う。国からもある程度方針を示されているかも知れないが、その方向性を教育委員会としても考えてほしい。

もう1つは、市の教育委員会で所管しているのは小中学校の義務教育と市立高校であるが、玉野市には県立高校が2つあり、そことの連携がどうなのかと思っている。現在中学校を卒業して市外の高校に進学する子も多く、定員割れしている状況が続いている。県立高校には市内市外の生徒もいると思うが将来玉野に帰って来て住む、仕事をするということになったときに県立高校の生徒にも玉野市のことをもっとよく知ってもらい市の魅力を感じてもらいたい。あるいは教育の面でも中高の連続性も大事だと思うので、そういったことを考えていただきたい。高校側へもアプローチしていかないといけないが、そういう問題意識を私は持っておりその話を具体的に進めていきたい。

また新型コロナウイルス感染症の影響も気になっており、先日の報道などでも取り上げられていたが昨年は一斉休校などがあり、その後不登校が増えたという話もある。当市においては去年のことなのでその前年と比べてどうなっているのかということを、コロナの影響で不登校になったり学校に行きづらくなってる生徒などがいる状況なのであれば、そのケアが必要になると思う。これまでの不登校のケアとは性質が違うものがあるかもしれないし、ボリューム的にも増えているのであればその対応も考えていただきたい。教育面ではそういうことを思っている。それに対して意見等があれば、まずは1つの目の議題について伺いたい。

教育長　知識偏重という話では、例えば福武教育文化賞をいただいたが、学んだことを生かす活動として「たまのスチューデントガイド育成プログラム」などが玉野市にはあり、教育委員会としては中学校区一貫教育と学力向上・キャリア教育という2本柱として取り組んでいる。それについて学校教育課長から説明させていただきたい。

学校教育課長　本市では小学校、中学校義務教育の9年間を通じて、子どもたちに必要な資質能力を確実に育むことを目指して中学校区一貫教育の推進を図っている。中学校区一貫教育については平成30年度から制度化し本格的に取り組んでいるが、それより以前の平成28年、29年あたりから小中連携して一貫した教育支援を系統的継続的に取り組むことで、しっかり子ども達を育てていこうということで取り組んでいる。この中学校区一貫教育については、特に学力向上の推進とキャリア教育の推進の2本を大きな柱に位置付けて推進している。特にキャリア教育については子ども達が生きていく力を身に付ける、また将来を見据えてしっかり生きていくというような必要な基盤とな

る能力・態度を育てていくというところで、特にキャリア教育について力を入れて取り組んでいる。具体的には市内を教育のフィールドに、ということで地域の人材を活用しながらさまざまな実践的な取り組みを行っている。小学校、中学校それぞれ社会科見学、企業見学、地域調べ、地域探検というようなことで地域の方々と一緒に色々学習に取り組んだり、中学校であれば職業体験で地域の方に色々職業について実践を通して学んでいる。本市についてはそのようにこの 2 本の柱として、中学校区一貫教育を大きな方針、特徴として取り組んでいる。

教育長　　教育委員の方より意見があれば伺いたい。

三宅委員　　先ほど市長が言われたデジタル化や IT 化、AI といった非常に新しい分野がこれから主流になり、子ども達は 10 年後、20 年後にはそういうものをしっかり使いこなして仕事をしているであろうと考えるが、以前よく教育界でも言われていたが「不易と流行」という言葉がある。不易は社会が変化して時代が変わっても変わらないもの、教育で言えば豊かな人間性や正義を重んじる心、自然を愛する心、それから伝統や文化を大切にする心などはやはり変わらない部分だと思っている。しかし教育も市長が言われたように社会の変化とともにも変えていくものもあり、それが流行という言葉になると思う。例えば GIGA スクール構想や新聞で報じられたように小学校の高学年からの教科担任制に移行すること、小学校の英語がこれから主流になっていくなど色々な新しいことも出てきているが、そういうものも取り入れていきながらやっていかなければならないと思っている。しかし大切なのはやっぱりバランスだと思う。一方に偏ってしまえばやはり教育が成り立たないので、不易の部分と流行の部分をバランスよく進めていく、そういう教育であってほしいと思っている。

太宰委員　　先ほど三宅委員も言われたように、デジタル化、IT 化というのが進んで来て、GIGA スクール構想で子ども達はタブレット端末を 1 人 1 台持っているのは、とても便利に使いこなす道具だとは思うが、玉野市というのは自然豊かでとても恵まれている地域にあると思う。タブレット端末だけに頼るのではなく、自然に触れたり実体験を通して得られる学びというのが必ずあると思う。デジタル化にはデジタル化の良い所もあるだろうが、子ども達は人とのコミュニケーションであったり機械では学び取れない教育、実体験で海に行って潮の香りを感じたり、山に行って落ち葉の上を歩くといったことを大切にしながら、玉野の子ども達には育っていってほしいと感じている。そういうところも活かしながら子ども達を育てられるような玉野であってほしいと思う。

加藤委員　　詰め込み式知識偏重という言葉があったが、ベースの学力は必要だと考える。ベースの学力をつけた上で、本当に何が必要なものかを判断する力を身に付ける。そのために私たちが視察に行く小学校や中学校では人として生きて行くために必要な学力を必要なだけ身に付けるようにプログラムされていて、また教科書もそのように成り立っている。その教科書にあることを、できれば 1 人の落ちこぼれもなくきちんと身に付けていくことが本当に子ども達にとって大切なことであり、そこができた上で教養の部分に初めて進んで行けるのだと思う。なので幼稚園保育園でしっかり遊んで実体験を身につけた上で、小学校で知識として自分の体の中に取り入れる。そのことか

ら郷土への愛も芽生えてくるし、どんな都会にいてもやはり玉野に帰りたいという思いが初めて生まれてくるのだと思う。そのために小中学校の勉強は子ども達にはできるだけしっかりと身につけさせてあげたいと思うし、私自身この玉野で小中高と過ごしたがそこで身につけたことは本当に重要な事ばかりだった。先ほどあったGIGAスクール構想と言っても、それはツールであって目的ではない。子どもたちはAIやタブレットを大人よりずっと簡単に操作している。大人がそれに対してそういうものは難しいからという思いを持っているが、子供は平気でタブレットを触っていてそれは私たちが本を読む感覚と同じなので、そこをあまり難しいことだとかそれが一緒になっていいのかと思わずに、そのためには子ども達にきちんとした学力をつけさせ、そしてきちんとした心、犬や猫や鳥を見て可愛いなと思い自分たちと同じ命であるというように思う、そういう気持ちを育める子にする。それがベースの学力と合わさった時に、海を見て美しい、潮の香りを嗅いで気持ちがいいと感じ、そして美しい日本語を相手に伝えるコミュニケーションのために駆使して話をすることによって美しい人間関係が成立する。美しい日本語がしゃべられることが出来る子は英語はすぐにマスターできる。子ども達を見て本当にそう思うので、恐れることなくきちんとした国語を身につけさせる。ただ漢字の点やはねができていないと減点するようなことではなくもっと大きく見た国語力も必要であるし、また大学では今リベラルアーツということが盛んに言われている。答えのない問いに答えることができる能力を身につけるということがリベラルアーツであるが、答えがない問題に答えることができる能力はベースの学力、最低限の学力があってこそ、その上に積まれる教養だと思う。玉野の子ども達は美しい自然、教育を重視する人間性、そして海があるのだから、そこに私たちは本当に良い教育を授けてあげられるよう皆で知恵を出して、これからの未来これからの玉野を背負ってくれる子ども達により良いものを、生きる力を持ってもらえるようにできればいいと思っている。瀬戸内国際芸術祭や港フェスティバルでこの海や港などと接することができる地域性がある。昔は朝鮮通信使や北前船などがこの瀬戸内海を通って各島々に文化を残していっている。私たちの玉野にもその文化が残っているのでそういう文化も大事にしていけば、子ども達は本当に豊かに育つことができるのではないかと思っている。

妹尾委員　学力向上で言うと玉野では「おさらい会」を小学校でやっていて、視察して初めて地域の方がどんどん入っていて一人ひとり丁寧に教えて、基礎学力を身に付ける非常にいい場だと思った。このおさらい会はぜひ続けてほしいと思っている。もう１つのキャリア教育も他市に比べて進んでいると思っており、荘内中学校の「だっぴ」、荘内小学校では職業体験フェスタというのをやっている。ペットショップや銀行の行員、看護師など色々な職業を学校の中で体験できるというもので、他の学校の他市の校長先生に言うとその取り組みは良いのでうちの市でもやりたいと言うほどいい取り組みなので、それを玉野市の中で他の小学校でも広げていければいいのではないかというように感じた。

教育長　県の教育委員会は学力ではなく夢を持つということが大事なのではないかということで、夢育という言葉を使ってこれを推進している。玉野市も子ども達が夢を持っ

てくれるということはとても大事なことだと考えており、学力はもちろんではあるが色々な体験を通して子ども達の心も耕しながら成長させながら、夢のある子どもたちを育てたいというのが教育委員会としての方向性でもある。

市長　私が最初に申し上げたかったのは新しい時代に対応した教育というのが必ずしもタブレットや IT 機器を上手に扱うという意味ではなく、時代の変化でなくなる職業も出てくることが予想されるということで、知識だけではなく身に付けるべき人間性や教養も大事だと思う。その部分をしっかり身に付けていくという、変わらないもの、不易がありそこはしっかりとやっていただきたいと思う。今後の予測は難しいと思うが新しい時代でそういった部分に対応した教育も考えていく必要があるのではないかという問題意識は申し上げさせていただいた。そこも念頭に置きながら変わらない部分、人間としてしっかりとした教養とか心を持った人を育てることは大事なことなので、これをこの玉野の恵まれた自然環境や風土を活かして教育していくという事はとても大切だと思うし、そのことでまた地元に愛着を持って玉野で暮らしていこうと言う事に繋がっていくと思う。

教育長　次に高校教育、特に県立の 2 つの高校との連携という話が市長からあったが、近隣の小学校では教育活動の支援を県立の高校の生徒たちに教えてもらうといったことをしていただいている。市内の小学校も随分助けていただいているというのが現状である。企業との連携やインターンシップ等について、現在取り組んでいることを学校教育課長から説明をさせていただきたい。

学校教育課長　高等教育との連携、特に県立高校との連携については小中学校ともに交流活動等を実施して様々な活動を通じて連携を図っている。例えば小学校であれば小学校の交流活動として夏休みにサマースクールのボランティアとして高校生が学習支援を行ったり、吹奏楽部による演奏会であったり、陸上競技記録会が近くなった時に練習であったり大会等の支援、また高校生によるプログラミング学習といったことも近隣の小学校の方へ県立高校の生徒が来て実施をしている。中学校についてはキャリア教育活動の一環として県立高校の先生が出前授業を行って、その出前授業の後に進路学習として、中学生が高校を訪問して高校の先生による授業などを実施している中学校もある。そのように小学校、中学校それぞれ県立高校とも交流活動をそれぞれ実施している。特に本市の小中学校との交流活動というのは県立高校生にとっても本市への関心や愛着心を持ってもらういい機会となるし、本市在住の生徒にはこういった小中学校との連携や交流活動を通じて地域に貢献するといった人材育成にも繋げていきたいと考えている。また地域の企業との連携については、現在市立高校については玉野市産官学連携地域人材推進協議会が主体でインターンシップ事業を実施している。玉野市の商工観光課が事務局として実施をしており、今後県立高校については必要に応じてこういった商工観光課等とも連携を図って対応を検討していくことも考えられるかと思っている。

市長　高校のことを申し上げたのが、他県の例であるが学区を全国区のようにして全国から生徒を受け入れて、場合によっては地域に残ったり将来そこでまた仕事をしたりといったことに繋がっている。高校がその地域の核になっている例もあるので、地元の

自治体としてお手伝いするようなこともできないかという問題意識があり、まずは教育委員会としてどのようにお考えなのかなというところを伺いたかった。連携や交流は小中学校とされていることで、それを高校の方でどう考えているかというのも当然お聞きしないといけないと思うが、外から見ていて定員割れが続いたりしており、今後そのまま現在の体制でいっていいのかと思えるようなところもあるので、地元としても私自身も玉野高校が出身であり、何とかならないかなという思いもある。ある意味商工高校、市立高校と県立玉野高校は生徒の取り合いではないがライバル関係にあるのかもしれないが、やはり地元にある高校として地元の行政としても応援をしていきたいという思いはある。今どういったことが高校の活性化につながっていくのかということを考えていきたいと思う。先ほど出たような交流や企業との連携のインターンシップなどももちろん大事だと思うし、中学生などにもやっぱり玉野高校にいきたいって思ってもらえるような取り組みがあってもいいのかと思う。どうしても外に目がいくが、地元の高校に魅力があるというところも高校側にも頑張ってアピールしてもらいたいし、中学校なども後押ししたほうが良いかと思う。海士町の隠岐島前高校など全国でも有名な例があるが、そこは地元の長が町営の塾を学校の近くに作って高校生を通わせて、学力なども都会の高校と遜色ないような教育環境を作るなどもしている。従来の枠組みを取り払って考えていくこともあると思っている。

加藤委員　私も玉野高校卒なので玉野高校には頑張って欲しいと思うが、なにぶん県立なので私たち玉野市の教育委員ではどうにもならない。そこは市長が県に話をして、市がどこまでやることができるか、玉野高校だけが全国区の高校に変身することができるのかどうかになる。こうしようという方針を示してくださったら市民もみんな全力で応援できると思うが、県立高校を何とかしてと言われても私もして欲しいとしか答えられない。

妹尾委員　しかし一緒に魅力を高めていくというのが理想なので、4 校一緒に話し合う場などができればいいと思う。

加藤委員　提案だが 2 月に中島泉氏というタイムカードや駐車場の事業をしているアマノの会長が玉野高校の卒業で、その方が商工会議所の講演に来られる。中島氏の著作では東京外国語大学を卒業され海外にも出られて、ご自分の夢があってそれをこういう風に実行していたらいつの間にかアマノ社長になっていたという夢やビジョンなどが語られている。その中島氏が高校生の方とお話しして質問などをしたらきっと答えてくださると思うので、せっかく東京から玉野に来られるのであればリモートでもいいので商工高校と玉野高校と玉野光南高校とで会談をしたらどうかと商工会議所の女性会で提案したが、規模が大きすぎて実現していない。玉野高校だけでも出前講演で行ってもらえればと言ってるので、市長も考えていただきたい。卒業生や玉野市の人が日本を代表する企業の社長になり会長になるというのは皆に夢を与えることになるし、中島氏のビジョンは非常にしっかりしているので高校についての連携を仰るのであれば、そういうのにも手を伸ばしてみていただきたい。

妹尾委員　現在全県のところがあるが、全国区にするのはあり得ると思っている。共生高校という新見市にある高校に見学に行ったが、そこでは e スポーツの部活や学科があると

いうので県外からここにいきたいと言って生徒が来ている。寮が学校のすぐ目の前にあってその生活は自立が求められるが、不登校だった生徒も受け入れており実際にその不登校だった子も学校に通えるようになっている生徒もいるし、やはりまだ不登校に戻る生徒も若干いるという話だったが、そういう全国区で玉野市に来てほしいという雰囲気を出すのはいいと思うので是非進めてほしい。

市長　　こちらからの意向だけではなく高校とも話をしなければいけない

三宅委員　　県立高校は先ほど加藤委員が言われたように、市の教育委員会として取り組むのができない部分があるが、私は地元の子ども達がもっと地元の高校の情報を簡単に手に入れて、小学生も中学生も将来どこの高校に行こうかという考えもあると思うので、その保護者にも啓発していかなければならないと思う。私の子供も玉野光南高校へ行ったが、その時の校長先生が光南高校は野球部で甲子園にも行くし、東大にも入る高校を目指していると言うことで、非常に気に入って光南高校が大好きで未だに卒業しても部活の関係もあったり、色々人と会ったり学校訪問したりしている。学校も特色ある教育をやっているということを、地元の中学校小学校にしっかりアピールをしていくというのも大切だと思う。現在は高校も地域に密着した学習に取り組んでいるので、これからも枠を広げていっていただきたいと思う。

市長　　高校側も地元からのそういったアプローチや意見などはおそらく歓迎すると思う。ただそこが通じ難かった、お互いなにか見えない線がある気がしてあまり県立高校には口出し手出しはしないという事であったと思うが、同じ教育で市内の子ども達を育てていくという観点から言えば、県立だからと言うことは関係なく前向きに色々一緒にやっていくといったことはもっとあってもいいかと思う。

三宅委員　　この前商工高校に学校訪問に行った時に、企業の中で子ども達が溶接の技術を学んだりしているのを見させていただいたが、説明をされている方が「この子たちは非常に恵まれている。今指導されている方は県でも１、２番を争う技術を持つ方で、色々な卓越した技術を持っている方から指導を受けている」ということを言われていた。私も初めて拝見したがそういうこともっとアピールするべきだと思った。

市長　　市内にも色々な企業があって、こんないいことをやっているというのは私も最近知ったことがたくさんあるが、そういうことがもっと知られてもいいし、アピールをもっとしていかなければいけないと思う。普通科高校なので一旦大学に行って東京や大阪で就職するというようなことになりがちであるが、地元にこんな良い企業があってこんなことが出来るというのがどこかにあれば、卒業して帰ってきて就職するということも選択肢に入ってくる可能性もある。そういうことはもっとあってもいいと思う。

教育長　　委員の皆さんが言われたようなことが、県立高校だけでなく市立高校にもいい影響を与えるようにということと、市長が言うように県立高校から地域に貢献したいがどういう形で貢献をしたらいいだろうかという問い合わせがあったり相談にこられたりというようなこともあったので、市としてもこういった取り組みを考えているというような事があれば県の教育委員会の方も積極的に考えてくれるかと思っている。

３つ目のコロナ禍における不登校の状況については、学校教育課の方から説明をさ

せていただきたい。

学校教育課長　　不登校の児童生徒については近年増加傾向が続いている。ただコロナ禍において令和2年度については臨時休校があったり、感染不安の欠席扱いが出席停止になったりと昨年度は今までとはちょっと違った状況の中で、令和2年度については減少している。ただコロナ禍といったことで昨年度の数値については現れていない一定数もいくらかあるかもしれないので、今年度と昨年度を一律に比較というのは難しい状況である。今年度、現在の状況についてだが令和2年度は減少しており令和元年度、コロナ禍の前の時と比べるとほぼ同じ状況である。ただ小学校については若干令和元年度よりは増えている月も見られる。これがコロナの影響については明確には分からないが1つ考えられるものとして、例えば不登校の場合は学校へ行くきっかけとして学校行事などが大きな好転機会だったが、そういった行事が従来のようにはできず、特に1学期は感染状況が非常に厳しい状況だったため 10 月 11 月に全て学校行事が移っており、そのため1学期はそういった影響もあってか小学校については令和元年度よりは増えている。ただ中学校につきましてはほぼ同じで特に大きな特徴というのは見られない。コロナ禍で児童生徒、子ども達のストレスも大きいと思われるので、学校の方はもちろん不登校児童生徒については今まで同様にしっかり家庭訪問をしたり、しっかり話をしたりと支援、ケアをしている。コロナ禍で家庭環境や保護者の状況も変わっていることもいくらか影響している子もいるのではないかと考えている。ケアについては今まで行っている担任やスクールカウンセラーといった教職員、学校全体でしっかり体制を整えて支援、ケアを行っている。さらに、多様な居場所の提供として保健室や別室と登校をしやすい環境を作ったり、関係機関としっかり連携を図りながら進めている。さらに、ここ最近はオンラインということで例えば、Zoom等を使って学校の様子を見てもらったり朝の会につながって様子を確認したり、また、学校行事の前に決めている様子を見てちょっとでも学校へ行きやすい、いける雰囲気を作るということを行っている。不登校支援の新しい支援の仕方ということで、そういったことを取り組んでいる学校もある。

市長　　はっきりとコロナの影響で増えたといった状況でもないということか。説明にあったオンラインで行事を見たり授業に参加できるのか。

学校教育課長　　そういった学校もある。それぞれ児童生徒と話をして学校の実態に応じて進めている。

市長　　それは本当に新しい取り組みなので、少しでもまた登校できるようになればいい取組だと思う。

教育長　　学校訪問の中で学校には来れるが教室に入りにくい、あるいは、教科によっては入れるが、入れない教科もあるというようところで、例えば、保健室で実際に端末を持って授業を見てそこで学習をするという様子を見た事もある。そういう面でもオンラインというのはいくらかの効果を発揮していると思う。

加藤委員　　昨年度はできなかったが、今年度は学校視察をしている。その中で感じたことと市長の話を聞いたことの中から感じたことは、コロナ禍においてそれぞれの立場でそれぞれがそれぞれの場所で責任を果たすことにより、子どもたちは守られているという

安心感をもって学校に行けるようになると思われる。例えば、行政としては、ワクチンの充実や消毒の配布の充実、学校・園においてはそれぞれの行事のやり方の工夫によって子ども達も行事をする事の達成感と、保護者も子ども達を見る方法も変わってきている。そういう意味でコロナ禍を保護者も子供も学校もいいチャンスと捉えて、今までと違ったやり方で取り組んでいるように感じたし、違うやり方が今後コロナ禍でなくても必要になってくるのではないかと感じている。またコロナ感染対策について、子ども達も親もうつらない・うつさないという大前提が相手を大切にすることだということにつながり、子ども達も先生方も今まで以上に相手を思いやる気持ちが育っているように感じた。学校の先生方に関しては、良くしていただいており感謝しているが、さらに今後望むのはリモート、Zoom が使えるからといってリモートに頼らない、今までどおりフェイストゥフェイスの人と人との温かみのある関係性や授業のあり方、質問があれば一人ひとりに応えていくということを大事にしながら当市の子ども達をこれからも大切にしていただきたいと思っている。学校教育課長の説明にあったように、コロナ禍によって仕事を失くされた保護者もいることにより、家庭環境が変わってくるなどしている。また父親がずっと家にいることよって、気持ちがコントロールできなくなっている母親もいる。そういう小さな家庭環境の、仕事や母親の気持ちなどといったところまで行政で何かを考えてもらえれば、子ども達はもっと安心した環境で学習に励めるのではないかなということを視察の中で感じた。

市長　家庭環境の変化は、子供にとっては大きい。

加藤委員　子ども達の不登校は本当に増えていないと思うが、そういう気持ちなどを行事がない中でどうやって子ども達が発散していくか。今年も修学旅行も宿泊がなかった。

太宰委員　コロナ禍で今までできていたことができなくなった。しかしそれをよい方に考えて、コロナ禍のため今までできなかったことでもこうすればもっと違うやり方で出来るのではないかと工夫して、考え方次第でポジティブに考えていくこともコロナ禍になったからそういうことも考えられるのではないかなと思う。できないと嘆くのではなく子どもたちが 1 番だというのは大前提だが、その中で工夫してどうにかして楽しくできないかと、市長が言われる生きていく力であったり考える力というのも育め、皮肉なことにそういうことが育めるような場面が出てきたと捉えて、子ども達をまず 1 番に考えながら玉野で子ども達が伸びやかに大きくなっていくようお願いしたいと思った。

市長　コロナで色々な影響が出てると思うが、悪いことばかりでなくそれを機にいい工夫をしていい方向にもつなげていければと思う。先ほど私が申し上げたテーマについては、意見交換できたが追加させていただくと、漠然とした話ではあるが、文化芸術の機運を高めて、いずれは新しい市民会館を建てるということを公約として掲げている。そのあたりをぜひ頑張ってほしいと思うが、機運を高めるためのアイデアや手法などがあれば意見をいただきたいと思う。市民会館自体は、すぐには難しいであろうと思うが、まずは文化芸術の気運を高めていくということで市民が幸福に暮らせる街を作っていくというところが大きな目標であるが、それについて意見等があれば伺いたい。

教育長　　社会教育課が文化芸術等に関しては担当しているが、どのようなことをしているか社会教育課長から説明させていただきたい。

社会教育課長　　文化芸術関係については、基本的に市内の文化協会とも連携しながら、中央公民館ギャラリー等での展示会、市民コンサートの実行委員会を作って市民コンサートや合唱祭、吹奏楽フェスティバル等、昨年度はコロナの影響でそういったコンサート等が中止になったが、今年度については、今の状況ではそのようなイベントについは実施していきたいと考えている。市民会館や文化センターなどに代わる発表する場について苦慮されており、現在は荘内市民センター、すこやかセンター、生涯学習センターを案内はしているが、なかなか実際に大人数が入るような会場には苦慮している。その中でできるよういろんな機会をとらまえて、コンサートや美術展示会については、それぞれ文化協会を中心に取り組んでいただいているところである。

市長　　発表の場に苦慮してるというのは分かるが、練習場所が使えなくなって困っているといった話もあるのか。

社会教育課長　　練習場所についてもイベントと同様で、音を大きく出す特に音楽関係の団体では練習場所に苦慮されていると聞いているが、紹介する施設も限られており、希望通りのところをなかなか紹介できない現状が発生している。

市長　　やはりそういう場所が必要ということになるか。

社会教育課長　　紹介できる場所ができればというのは担当課としては思っているが、現状では公共施設も新たなものを作っていく状況ではないので、そのあたりは色々と工夫しながら案内している。

市長　　文化芸術はしっかり盛り上げていきたいと思っている。

妹尾委員　　街の図書館などは、その街の文化芸術レベルを知るのに図書館やホールというのはやはり必要であり、東日本大震災の後で書籍は全て流されたが図書館が心の治療所になったように、人々にとって心を豊かにしているために大切なものだと思う。現在は市民が普段使いできる、利用できる図書館があるのでもっと利用しやすくなっていけばいいと思う。市民会館について、私自身は天神山文化プラザまで行って朗読の練習をしている。市の中でお金を落としてくれて練習できて交流できる場所になるはずの場所がないから岡山市まで行ったり灘崎のホールを使ったりしているので、今すぐでなくてもいいので、次の世代の子ども達に残していけるようなものを長期間でもいいからいずれ作りたいという光だけでも見えたら、今困ってる人たちも次の子ども達が使える場所があるっていうのは希望になるのではないかと思う。そこは何か道を作っていただけたら嬉しい。ぜひお願いしたい。

三宅委員　　予算のこともあって本当に難しい問題だと思うが、以前玉野市の連合 PTA の行事として県内の力のある高校の吹奏楽部を呼んできて、市民の方や子ども達に演奏を聞かせるというものが年に一回あった。しかし市民会館がなくなってそれもなくなったが、とてもいいコンサートだったと思っている。有名な所でなくていいので本当に身近に高校生が来てくれたとか、子ども達がそれを聞いて自分もやってみようというような気運が高まれば非常に良いことだと思う。すぐにとは言わないが何年後かになってもぜひ子ども達にそういう機会を与えてあげたいと思っている。

加藤委員　　美術館もお願いしたい。奈義町や井原市にある。また、せっかくある施設で渋川の水族館は歴史もあるし学術的なものも持っている。隣には海の学習として県内の子ども達が利用する青年の家もある。そういう県内に一つの水族館を玉野市が持っているのに、それを館長室もないような形にしておくというのは本当にもったいないと思っている。ないものを 100 年後に作ることも、とても大切ですが不易、流行ではないが、今あるもので大切にしなければならないことをもう一度見直して大切にしていただきたいと思う。

市長　　水族館は今地元の高校生と一緒に手作りでハート型の池を作るといったこともしている。

加藤委員　　女性会もペンギンを呼び戻そうとペンギン基金を作っている。

教育長　　探せば今のようなちょっとしたことができる文化芸術的なものがまだ埋もれていると思う。教育委員会でもそういったあたりを考えていきたいと思う。

市長　　市内で唯一、耐震化出来てない学校があったと思うが、今後の予定はどのようになっていたか。

教育総務課長　　今後の予定については、市長と話をしてから進めたいと考えていたが、市長の考えに基づいて地元に行って説明できる機会を持ちたいと考えている。

市長　　私も一度現地を見たいと思っている。非常に立派な木造の校舎があるということは外からは見たことがあるが、もう少し近くにいって中に入ってみたい。できれば今の形を保存しながらいい方向に持って行ければと思っている。先ほど外部の方と話していたが、やはり古いものを大事にしていけば、例えば、映画のロケ地にするなど色々な可能性があると思う。そこで学んでいく子ども達も誇りになるだろうし、できるだけそういうものを大事にしていきたいという思いがある。

色々な課題があると思うので、今後ともコミュニケーションを取りながらよい教育になるようにしっかり進めていきたいと思う。